

2024年成果報告書

概要



三大感染症対策の現状と2023年の主な成果

2023年、グローバルファンドのパートナーシップは、エイズ、結核、マラリアとの闘いにおいて大きな前進を遂げました。支援対象国では、政府、コミュニティ、民間セクター、市民社会、そして技術パートナーの尽力によって、新型コロナウイルス感染症によって後退したエイズ、結核、マラリア対策は完全に回復しました。2023年、グローバルファンドは、単年では過去最高となる額を保健システムとコミュニティシステムの強化に投じました。2002年以来、エイズ、結核、マラリアの三大感染症による死亡率は61%減少しました。2023年末までに、グローバルファンドのパートナーシップの支援により、6500万の命が救われました。

HIV/エイズ

グローバルファンドは、国際的なエイズ対策支援資金の28%を提供しています。2002年から2023年にかけて、支援対象国におけるエイズ関連死は、73%減少しました。経口曝露前予防(PrEP)やダビピリン膈リングといった有効性の高い予防選択肢の普及を後押しし、より多くの人々にエイズ治療を提供しました。2023年には、HIV治療の第一選択療法にかかる治療コストの25%減額を実現させました。これにより、支援対象国の政府は他の重要分野に資金を充てることができました。エイズ対策では、人権侵害やジェンダー不平等の克服にも引き続き取り組んでいます。

2500万人

抗レトロウイルス療法を受けているHIV陽性者

5380万件

HIV検査実施数(うち1310万件は優先度の高い人々/キーポピュレーション)

1790万人

エイズ予防サービスを受けた人々(うち800万人はキーポピュレーション)

69万5000人

自らの命と母子感染予防のために医療を受けたHIV陽性の母親の数

92万5000人

エイズ予防目的で行われた自発的な男性割礼手術

32万2000人

経口抗レトロウイルス薬による曝露前予防を開始した人数

結核

グローバルファンドは、国際的な結核対策資金の76%を提供しています。支援対象国における結核による死者(HIV陽性者を除く)は、2002年から2022年にかけて36%減少しました。2023年は、「見逃された」結核患者の発見と治療、より良い治療レジメンの運用支援、スクリーニングや診断の普及の促進といった、公平かつ費用効果の高い結核対策を実施できるよう、支援対象国政府の取り組みを後押ししました。また、薬剤耐性結核治療の主流であるベダキリンの価格の55%減額に成功するなど、主な結核治療関連製品の価格も低減することができました。

710万人

結核治療を受けた人数

12万1000人

薬剤耐性結核の治療を受けた人数

35万3000人

抗レトロウイルス治療を受けているHIV陽性結核患者数

170万人

結核の予防的治療を開始した抗レトロウイルス治療を受けているHIV陽性者

200万人

結核に曝露し予防的治療を受けた人数

マラリア

グローバルファンドは、国際的なマラリア対策資金の62%を提供しています。支援対象国におけるマラリア死亡者数は、2002年から2022年にかけて28%減少しました。2023年は、マラリアの予防・治療のためのツール蚊帳、子ども向けの季節性マラリアの化学的予防(服薬)、妊娠中の予防的マラリア治療、抗マラリア薬などへのアクセスを拡大しました。また、二重有効成分(AI)を持つ新たな蚊帳も確保しました。従来の蚊帳とほぼ同価格でありながら、殺虫剤耐性を有する蚊に対しても、より高い効果を発揮します。

2億2700万張

マラリア予防のため配布された蚊帳の数

3億3500万件

マラリアが疑われる症例の検査数

1億7100万人

マラリア治療を受けた人数

4460万人

季節性マラリアの化学的予防(服薬)を受けた子どもの数

1550万人

マラリアの予防治療を受けた妊婦の数

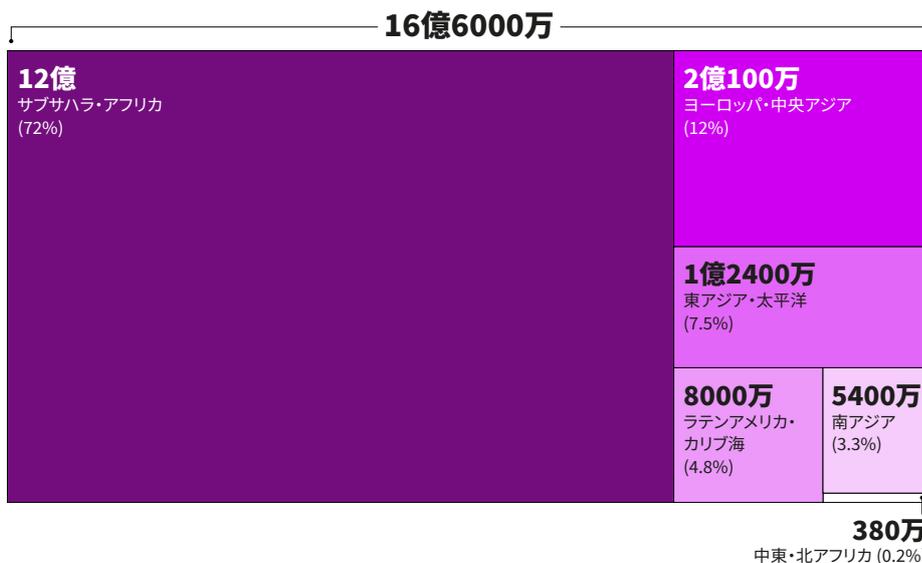
保健システムおよびコミュニティシステムの強化

グローバルファンドは、低・中所得国における保健システムおよびコミュニティシステムに世界最大の無償資金供与を行う国際機関です。2023年は、新型コロナ対応資金調達メカニズムによって調達した18億米ドルを再投資する形で、活動を加速させました。2024年から2026年にかけて、グローバルファンドは推定60億米ドルを投じ、あらゆる疾病対策でより高い成果を上げ、パンデックへの備えに取り組み、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジの達成を目指す各国の取り組みを支援します。

保健システムやコミュニティシステムへの直接的な投資ではありません。グローバルファンドのエイズ、結核、マラリア対策への資金供与によって、支援対象国とコミュニティの資金やキャパシティに余裕が生まれ、他の疾病や保健上の課題にもより対応できるようになりました。2023年末までのエイズ対策への投資により、エイズに起因する入院日数は16.6億日、外来数は13.6億回減少し、850億ドルのコスト削減に繋がりました。

エイズ関連入院日数の低減

グローバルファンド支援対象国内(2022-2023)



世界銀行の地域分類。グローバルファンド設立時から2023年までに資金分配を受けた国が対象。

重複する危機

2023年、世界は、気候変動、紛争、反ジェンダー・反人権運動、市民社会への攻撃といった数々の危機に直面し、国内や国家間の不平等が深刻化しました。このような課題が、貧困層や社会から疎外された人々の感染症の罹患リスクを高めています。

グローバルファンドは、これら危機に対して独自に対応し、各国の保健システムおよびコミュニティシステムの強化のみならず、緊急資金の提供や人道支援団体とのパートナーシップを通じて、危機の影響を受けている人々を支援しています。2023年には、Breaking Down Barriersイニシアチブを拡大し、保健サービスへのアクセスを阻む人権・ジェンダー関連の障壁の除去にも取り組みました。迅速な支援を

提供することで、困難な状況下でもエイズ、結核、マラリア関連プログラムが確実に継続されるよう、対応しました。2023年、グローバルファンドは、気候と保健双方に対応する分野への投資を加速させるため、世界銀行および緑の気候基金との新たな戦略的パートナーシップを発表しました。

バングラディッシュのスリーウラ村。水没した自宅近くで、6歳の娘スマイヤちゃんと洪水の中を歩いて渡るシラジュル・イスラムさん。バングラディッシュでは毎年数十万の人々が気候関連の災害により家を追われ、都市部に避難します。しかし、不十分な衛生状態と人口密度の高い環境は、結核やその他疾病の蔓延を助長させます。

© UNICEF/UNI424978/Sokhin



グローバルファンドとは

世界エイズ・結核・マラリア対策基金(グローバルファンド)は、エイズ、結核、マラリアを終息させ、すべての人に健康かつ安全で、より公平な未来を築くための世界的なパートナーシップです。年間50億米ドル超の資金を調達し、最も影響が深刻な100カ国以上における、三大感染症との闘い、感染症を助長する不公平の克服、保健システムの強化、パンデミックへの備えに投資しています。世界のリーダー、コミュニティ、市民社会、医療従事者、民間セクターと連携し、最も効果的な方策を見出し、世界規模で展開しています。2002年の設立以来、グローバルファンドのパートナーシップの支援により6500万の命が救われました。